

科目名: 情報分析力を鍛える		科目コード	AA51
科目主査: 中澤 達彦		単位	2
担当講師: 池内 健治、榎村 麻里子、恵志 泰成、大神田 博、小野 洋子、小林 孝雄、小林 久司、陶山 登、竹元 雅彦、中澤 達彦、畠田 幸恵、森 昭彦、依田 朗裕		配当年次	1
授業の目的と概要	グループワーク: <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	個人ワーク: <input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	カメラ・マイクの必要性: <input type="checkbox"/> 必須 <input type="checkbox"/> 望ましい <input checked="" type="checkbox"/> 不要
<p>たくさん情報を収集できるようになったのに対して、収集した情報を上手に活用することは簡単ではありません。職場・家族・地域社会など、の組織や共同体においては、関係者を説得し理解・納得を得なければ、種々の課題解決を行うことはできません。的確な情報分析力は、円滑なコミュニケーションを生み出し、話を前に進ませる大切な基礎となります。</p> <p>本科目では、事前学習で理解した知識をベースに社会人として情報を上手に活用するためのカギとなる情報分析力の考え方を理解し、その高め方を学びます。</p>			
履修の前提となる科目	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	科目名:	
履修の前提となる知識 その他特記事項	初めの方にもわかりやすく事例を交えてすすめます。企画やプレゼンテーションの構成などにも活用することを視野に入れて構成します。キーワードを参考に整理し、自分の考えを表現できるように準備してください。		
テキスト	『情報分析力を鍛える』,生方 正也,産業能率大学 総合研究所,2016年		
この科目の到達目標	<p>①情報の入手と利用に関する基本的な手法および情報分析についての基本的な考え方を説明でき、有効に活用できる。</p> <p>②テキストに記載された事例などを応用し、仮説の設定⇒分析⇒意思決定を繰り返し行い、現実社会の事例に当てはめて応用できる。</p>		
成績評価の方法	個人ワークへの表現を評価対象とします。個人ワークのテーマは、時の話題、テーマなどを織り込みますから、話題、テーマに応じて、取組時間などが変化します。		
事後学習	情報を上手に活用するポイントを整理して表現することをよい習慣とし、ビジネスや学習などで積極的に応用することにより、新しい価値を生み出すチャレンジに結びつけられるようにしていきます。		
事後学習の参考文献	<p>『アナリストが教えるリサーチの教科書』高辻 成彦,ダイヤモンド社,2017年</p> <p>『ビジネスマンのためのデータ分析&活用術』米谷 学,フォレスト出版,2016年</p> <p>『情報を生かす力』池上 彰,PHPビジネス新書,2016年</p>		
スクーリング受講時に用意するもの	<input checked="" type="checkbox"/> テキスト <input checked="" type="checkbox"/> 筆記用具		